

2. 今後の災害時に備えてしておきたい行動・解決策

☆ 避難所

- ・家族と避難場所の確認・共有。
- ・自宅から避難する場所をあらかじめ決めておく。
- ・勤務先、大学から避難できる場所を確認しておく。
- ・避難所を開設しているものの、地域住民に伝える術があまりない。(ホームページは有)
- ・避難所開設の方法は学んでも、知り合った仲間との情報交換(写メなど)はとても役立った。
- ・避難所の運営上、タブレット(10インチ以上)確保が必要。個人のスマホや携帯電話ではなく、避難所に一つ以上は備えて置く必要がある。情報の取得は災害時には必須であり、個人個人のスマホ等だと充電難民のもとになる。行政で備蓄、派遣される区役所の地域担当職員が持参するように出来ないか検討頂きたい。
- ・いざ避難指示が出された時に、避難所に行くのかどうかという気持ちになったのと、避難所には何が準備されているのか知らなかった。
- ・避難場所の徹底確認。高齢者にも。
- ・避難所開設時に自身が地域にいるとは限らないため、資材の場所の再確認や、開設方法のマニュアルを作成し、その時にいるメンバーがスムーズに開設できるようにしておく必要がある。
- ・台風24号発生時には、休日に複数の人間と連絡調整し、利用承諾、鍵を貸与のうえ、多目的教室に避難所開設を行った。(災害時の避難所は講堂に開設する前提があるため、地域、区役所ともに多目的教室の鍵の貸与を受けていない。)その後、小学校と多目的教室を管理している放課後事業と調整し、台風による避難所は多目的教室開設することの利用承諾と鍵の貸与を受けた。
- ・開設の周知は、青パトでアナウンス巡回と町会掲示板への周知文書掲示により行った。周知文書は定型ひな形を作成し、開設連絡があれば各町会で台風号数と日時を記載のうえ、速やかに周知できるよう各町会へ配付済み。青パトアナウンスについても定型文により速やかに周知できるよう地域と調整予定。アナウンスと周知文書により「備蓄品配布なし。水食糧は各自用意。」を周知したことで避難者は各自水食糧を持参し、問合せを受けることもなかった。
- ・乳児が避難してきたため、人目に触れず授乳できるエリアの確保を行った。(今後も同エリアを利用できるように調整済み。)
- ・ペット同伴の検討必要。人と同じ室内には入れないし、暴風雨の中外におけないので、連れてこないよう事前周知する。
- ・9月4日の場合、停電があったが、住居にさほど被害がみられない場合、学校でなく町会等の地域の集会所での避難も考えられるし、その方が良いと思われるところもあり、この点について進めていきたい。

☆ 通信と情報

- ・身を守るための知識や被災生活の工夫など情報を持つておくこと。
- ・近所・町内の人と情報を共有できる様に常日頃よりコミュニケーションを取る事を必要かと思う。
- ・自助・共助とは、まずは、向こう三軒両隣。平素からのコミュニケーション力、近隣付き合いは最大の防災。
- ・「自助」「共助」の大切さも感じたが、やはり頼りになったのは「近所」。頼れる「近所」との関係が薄い方の不安は大きかったと思うので、仕事を通じて区内のご近所付き合いの大切さなどの普及・啓発に継続して取り組みたい。
- ・地域の情報や身近な情報は、町内放送や青パトを利用して発信できないかなと思う。
- ・介護保険事業のお客様（高齢者）にスマホをお勧めする。（LINE の利用や災害アプリの活用）
- ・災害時の連絡手段を決めておく。（緊急時 LINE グループには全従業員を入れる）
- ・家族との連絡の取り方の確認。
- ・家族の連絡方法を決めておく。
- ・情報システムを活用して、迅速に状況把握する。
- ・携帯の充電は日々行うべきと痛感した。
- ・スマホはいつでも手に取れるところに置く。
- ・社員の安否確認や連絡網など、複数の手段を用意しておく。（LINE、SNS、CW、災害伝言ダイヤル等）
- ・台風に備える広報時に、飛来物の処理方法も載せる。青パトで伝える。
- ・連絡手段の確立、知識の向上が必要。尚、その際は高齢者であっても SNS やソーシャルネットツールの使用の為の知識の習得が必要であり、備えとして命を守るため勉強会の実施と周知を繰り返すことが大切。
- ・連絡方法として LINE の活用を準備しておいた。
- ・家族の連絡方法を決めておくことが一番重要。
- ・安否確認を家族と確認し合うことが大事。
- ・家族や友人、知人との連絡手段を日頃より確認しておくこと。LINE や SNS を活用。
- ・大きな地震があった場合、学校（授業）があるのかを確認する必要がある。それほど大きな地震でもないかと思い、登校する時間だったので、津波や余震のことも考えずに学校へ行かせたので、まず情報収集を心掛ける。
- ・台風の際はニュースや天気予報の情報で事前準備ができたので、今後も情報収集はやっていこうと思う。
- ・防災リーダーの LINE 利用者でグループを作成し、被害状況の取得や行政の対策等情報発信グループラインを利用して行っている。LINE 非利用者に対する即時性の高い情報発信や情報取得が課題。

☆ 備蓄

- ・停電に備えて懐中電灯や電池などを準備しておくべきと感じた。
- ・水や食料の備蓄、家具転倒防止など基本的な備えを改めてするべきと感じた。
- ・懐中電灯や長靴等、事前に身の回りに用意しておく。
- ・防災グッズの点検・補充。（食料・電池・スマホの充電器）

- ・台風は事前に分かるので、日常生活の準備を早くしておく。
- ・非常持出品の準備。
- ・薄型のモバイルバッテリーを常時持ち歩く。
- ・災害後のあと処理について、必要な情報が細部にまで届いていない。
- ・常に非常用の水、ガス、食料の備蓄を心がける。
- ・飲料水の買い置き確保、風呂に水を溜めておく。
- ・停電に備えて自宅内にランタンなどの置き場所を再確認。
- ・手動発電機などの準備。
- ・非常食は保存が効くものも大事だが、パンやカステラのように糖分が多く、すぐに口に入れられるものをローリングストックしておく。
- ・水分がとれないことを考え、イオン水やジュースを準備。
- ・停電後に断水があるかもしれないので、飲み水やモバイルバッテリー等が必要ではないかと考える。
- ・保存食の確保（水等含む）は必須。
- ・停電対策として懐中電灯の確認や準備、水の確保や保存食の確認をした。
- ・カバンの中に軽い食べ物等を入れておくべき。
- ・区役所で蓄電を考えてほしい。
- ・飲料水の確保や食料品の備蓄。
- ・台風時には外部ベランダの物干し竿の撤去やごみ箱や鉢の屋内整理や湯船に水を張る。
- ・災害グッズを揃えておく。
- ・防災グッズとして、履物や軍手、タオルを身近なところに置く必要性。
- ・保存食、水、即席食品、缶詰などを家に常備する必要がある。
- ・1～2日は通常生活が送れるだけの備蓄食料に、火、水、灯りの準備はしておこうと思う。
- ・エレベーターが止まると重いものを持って上がったりできないので、食品や水のストックは多めにしておこうと思う。
- ・リュックにある程度準備はしていたが、しっかり必要なものを入れておこうと思った。（10円玉もいざというときは、公衆電話使用の際に必要。）
- ・保存食は用意していたが、少なかったので普段から確保しておきたいと思う。
- ・日頃から履物（就寝時含む）や手袋、タオル等を身近に置く備えが必要。
- ・ノーパンクタイヤ使用の自転車は有効。持っているると瓦礫等の多い道路の走行に大変良いと思う。

☆ 訓練

- ・実用的な避難訓練を実施する。
- ・近所の友達との災害時シミュレーション（楽しく学べるのが基本）を定期的にしておく。
- ・地域全体での避難訓練やシミュレーション、情報伝達の体制をさらに強化を必要と感じる。
- ・避難所開設にあたって、情報伝達訓練（地域と区役所職員合同）は必須。
- ・避難所の開設を実施する地域防災リーダー、地域振興町会役員等は事前に準備のため大阪市避難所開設規定や要綱等の知識の習得（区役所職員との勉強会等）が必要。
- ・地域の中で勉強会を定期的実施する。

- ・普段から災害に対する知識、自治体における防災訓練の必要性。
- ・ブルーシートの張り方についてのワークショップがあれば良いと思う。
- ・地域の長、防災リーダーは災害時には必ず区危機管理室の SNS での情報を確認するような環境を強く感じたので、そういう学習会的なもの開ければ。
- ・日頃の備えとして区民（避難者）に地震の際の避難、台風や豪雨による水害等の上昇避難、自主避難や避難指示、避難勧告等の違い（区別）を周知し、知識の向上を図る必要を感じる。尚、自助の意識づけは特に大切に思う。（在宅避難等）

☆ その他

- ・台風前に飛びそうなものは片づけておく。
- ・個人での災害準備は家族も含めあれこれと準備はあるが、災害事体は地域全体に起こることなので、地域全体で考えて備えておかないと個人では限界があると感じた。
- ・電動シャッター横の壁に新しく丈夫な鉄製ドアをつけた。
- ・地震と台風では自身も地域としても分けて対応策を考えていきたい。
- ・災害が続いた“今”、しっかりと地域として話し合っていくべきだと考えている。
- ・家具の転倒防止は重要であると思った。
- ・倒壊の恐れのあるブロック等の周知も必要だと感じた。
- ・台風は地震と違い、事前にくるのがわかるので、備えはある程度可能である。飛散防止対策や修理も必要である。
- ・出勤時に地震に遭遇したら、電車の停止場所・状態にもよるが、帰宅するか、出勤するかの判断をする必要がある。
- ・家庭においては、日ごろから防災についての話をしている。家具の転倒防止、食器棚のガラスには飛散防止のフィルムも貼っており、就寝するとき、枕元に懐中電灯は常時おいている。
- ・住まいはマンションであり、マンションの防災を担当しているので、6月18日の地震後、号館の住民に防災のチラシを配った。今月には、続編として（平常時の自助活動、災害時の行動について）、自治会に加入しているお宅にチラシを配り、防災意識を少しでも向上させていけるように活動している。
- ・停電にはまいった。関西電力はもう少しきちんとした情報を出してほしい。
- ・突然来る震災は仕方がないが、台風など予想される天災には、報道には注意して自己判断せず、安全を第一に考えるよう行動したい。
- ・家具の転倒防止策＝寝室や玄関、出入口等には家具を設置しない。
- ・地震時は、区内でも小学校により対応が違い、休校になったところもあったようなので、登校させて不安でいるより、小学校の判断でなく、自分の判断で休ませればよかった。
- ・建築物の破損対策はしっかりと取組んでいき、被害を少しでも抑えたい。
- ・台風の時は停電になるかもという意識をもって台風に備える。今回の台風で停電するとマンションは水道も止まるということを知った。
- ・いざというときの町会としての避難行動（誰が誰に声をかけ、誘導するのか。どこに集まり、誰がリーダーとして動くか等）が全くできていないので不安。大至急話し合う必要あり。